

親子の学び応援講座（川俣町PTA連絡協議会）



令和6年11月14日（木）川俣町PTA連絡協議会において、親子の学びや家庭での実践活動を支援するため、親子の学び応援講座を開催しました。今回は保護者だけでなく、小学6年生、中学1、2年生も一緒に、耳が聞こえないというハンデをもちながらも夢を叶えた講師の経験を聞くことで、諦めずに挑戦することの大切さ、互いに家族や周りの人達の思いについて考える機会とするため実施しました。

講演 「聞こえなくても私は負けない」

由美恵さんは、2歳のときに耳が聞こえないことが判明しました。聞こえないことでいじめられることがあっても、母親には「聞こえなくてもできるということを見つけてやりなさい」と育てられました。耳が聞こえないことでやりたいことや、目標を諦めるしかない事が続き、落ち込むこともありました。そんな時に誰に対しても平等に波が押し寄せる海に出会い、「ボディーボードの世界」に魅了され、プロとなります。

母の教えを支えに、自分しかできないことに挑戦し、乗り越えてきたことや、聞こえないからこそ気付くことができた大切なことをご自身の経験を基にお話していただきました。どんなことも前向きに捉え、諦めずに挑戦してきた由美恵さんの話に引き込まれ、講演後には積極的に質問する子どもたちの姿が見られました。



堀 由美恵 氏

元プロボディーボーダー
一般社団法人陽けたら海へ 代表理事



【質問】くじけそうな時はどうしているか。

【回答】母に教えてもらった言葉を思い出している。絶対に落ち込んだ時の裏側にはプレゼントがくっついている。

【質問】簡単に諦めてしまうがどうしたらいいか。

【回答】諦めることも大事。まずは挑戦した自分をほめて欲しい。挑戦したからこそ、結果がわかる。少しずつ前に進めばいい。

【参加者の声】

- 由美恵さんのお母さんの話を聞いて、どんなに厳しく接していてもその裏側にはたくさんの愛情があると思った。（小学生）
- 「大変なことの裏には素晴らしいことがくっついている。それも含めて楽しんでいる」という言葉と、その考え方にとても感動した。また、このようなポジティブな考え方が人の心を支えているのだなと思った。（中学生）
- 大人も子どもも心が揺さぶられる内容だったのではないと思う。これから先の自分について考えさせられた時間となった。（教員）
- 幼少期からの母親の教育が素晴らしい。障がいがある、なしに関わらず、ごく普通に育てて欲しいという願いが叶い、今の由美恵先生がいると思う。（一般）

「陽けたら海へ」について

由美恵さんは、海をとおして聞こえる人も聞こえない人も笑顔でいられる社会「デフノーマライゼーション」の実現を目指し様々な活動に取り組んでいます。

「陽けたら海へ」の活動について詳しく知りたい方は下記二次元コードからご覧ください。



どんな悲しみも
泣き続ける日が来ても
必ず夜が明けて
太陽が上るように
暗闇は明ける。
そして海に行こう。



家庭はすべての教育の出発点です。よりよい親子関係を築くためには、親と子の双方が互いの気持ちを知ろうと努力し、尊重することが大切だと感じました。

県北教育事務所では、親子が共に学び、育ち合う「家庭教育」を今後も応援していきたいと思っております。

家庭教育に関するお問い合わせは
県北教育事務所 総務社会教育課 伊藤まで
電話 024-521-2814
E-mail itou_emi_02@pref.fukushima.lg.jp